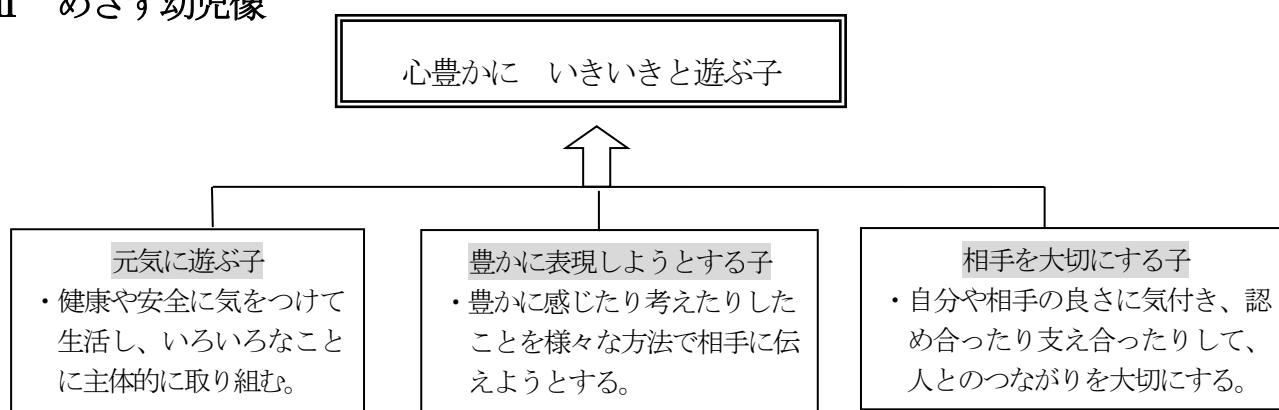


本園では、子どもたちが遊びを通していろいろなことを経験し、様々な感情を味わうことを大切にしている。そのため、教師は『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を意識しながら、環境構成や援助を工夫して保育を進めることが大切であると考えている。また、人と人とのつながりを大切に、関わりの中で相手の気持ちに気づき、思いやりの心を育てていきたい。

I 本園の教育目標

遊びや人との関わりを通して『生きる力』の基礎を育む。

II めざす幼児像



III 本年度の重点課題

- 1 実際の体験を通して、様々な感情を味わったり、考えたり繰り返し試したりできるように教師の援助や環境構成のあり方を探る。
- 2 3年間の発達を見通し、基本的な生活習慣や態度を身に付けられるように関わる。
- 3 自分の考えを伝えたり、友達の考えに耳を傾けたりしながら、互いを認め合える関係を築けるように関わっていく。
- 4 友達や異年齢児、絵本ボランティアの方々、小中学生など、人とのつながりを大切に、思いやりの気持ちを育てていく。
- 5 保育や特別支援教育などに関する園内研修を通して、教師としての感性や専門性を磨き、保護者や地域の方と連携しながら保育の充実に努める。
- 6 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を意識しながら保育し、幼小連携を通して滑らかな接続を目指す。

IV 達成のための方策

- 1 実際の体験を通して、様々な感情を味わったり、考えたり繰り返し試したりできるように教師の援助や環境構成のあり方を探る。
 - (1) 心安らぐ、あたたかい雰囲気づくりに努める。
 - ①一人一人が安定して生活できるよう、心の居場所づくりに努める。

- ②一人一人の思いを受け止め、良さや頑張りを認めていく。
- (2) 身近な自然とのふれあいを通して、豊かな感性や表現力を育む。
 - ①身近な自然環境にふれ、四季の美しさや変化などを感じられるようにする。
 - ②生き物を身近に見たり触ったりして心ふれあう場を大切にする。
 - ③動植物の世話を通して、命の大切さを感じられるようにする。
 - ④野菜を育てたり収穫したりして、食に対する関心をもてるようにする。
 - ⑤幼児の驚きや感動などをしっかり受け止め、共感する。
- (3) 幼児が自分なりのめあてをもち、意欲的に取り組める環境を整備する。
 - ①発達段階を考慮し、幼児が興味関心をもって取り組める環境を構成する。
 - ②主体的、意欲的に取り組めるよう環境の再構成をしていく。
 - ③様々な直接体験ができる場を大切にする。
 - ④行事を通して日本の伝統に触れたり、国際的な言葉や文化にふれる機会をもつ。

2 3年間の発達を見通し、基本的な生活習慣や態度を身に付けられるように関わる。

- (1) 毎日の生活や様々な人と関わる中で、進んで挨拶ができるようにする。
- (2) 3年間の発達を見通し職員で共通理解しながら、身の回りの始末や片付け、食事の仕方などが身に付くように指導していく。
- (3) 人の話を聞く時や公共の場での態度など、その場に応じた適切な行動ができるように確かめたり皆で考えたりする場を大切にしながら指導する。
- (4) 生活のリズムや食事の習慣などが身に付くよう、家庭との連携を図る。
- (5) 戸外遊びを通して、体を動かす楽しさを感じながら基礎的な体力づくりに努める。

3 自分の考えを伝えたり、友達の考えに耳を傾けたりしながら、互いを認め合える関係を築けるように関わっていく。

- (1) 一人一人が、素直に自分の思いが伝えられるような雰囲気づくりに努める。
- (2) 自分の思いを様々な表現で表すことができるような場をもち、表現できた時には受け止めたり認めたりする。
- (3) 友達の話に耳を傾けたり、互いを認め合ったりする関係を築けるように、一人一人の良さを認めていく。

4 友達や異年齢児、絵本ボランティアの方々、小中学生など、人とのつながりを大切にし、思いやりの気持ちを育てていく。

- (1) 一緒に生活する中で、相手の思いに気付き、思いやりの気持ちを育む。
- (2) 友達と楽しさを共有し、新しいことや困難なことでも一緒にやり遂げる満足感や達成感が味わえるようにする。
- (3) 集団生活の中では、ルールがあることや自分のしたことには責任があることに気付き、守ろうとする気持ちを育む。

(4) 様々な人と心が通い合う嬉しさが感じられるよう、小中学生や絵本ボランティアの方、地域のシニアクラブの方などと交流する機会をもつ。

5 保育や特別支援教育などに関する園内研修を通して、教師としての感性や専門性を磨き、保護者や地域の方と連携しながら保育の充実に努める。

(1) 教育の専門家としての資質向上をめざす。

- ① 幼児の姿や発達段階からできるだけきめ細やかな指導計画(長期・短期)を作成し、ねらいや内容を共通理解する。
- ② 全職員が全幼児に関わり、情報交換しながら幼児理解を深め、指導の充実を図る。
- ③ 幼児の育ちや遊びの様子から日々の実践を点検、評価し、計画の見直しや保育の構想に努め、実践していく力をつける。
- ④ 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を意識しながら、一人一人に応じた指導をしていく力をつける。
- ⑤ 他の教師からの助言を謙虚に受け入れ、内容の充実と指導力向上をめざす。
- ⑥ 課題をもって取り組み、自己評価、園関係者評価を指導に生かしていく。

(2) 事例提供による保育研修をし、視野を広げる。

- ① 事例を出し合い、意見を聞いて事後指導に生かしていく。
- ② 他の教師からの事例を自分への課題として捉え、考え方を整理したり視野を広げたりできる機会として主体的に考える。

(3) 人間的魅力のある教師をめざす。

- ① ジャンルを超えた幅広い教養を身に付け、いきいきとした生活をする。
- ② ボランティア活動を通して職場以外でも自分の力を発揮する。
- ③ 互いの努力を認め合い、励まし合いながらあたたかい人間関係をつくる。

(4) 特別支援教育の充実を図る。

- ① 支援を必要とする幼児の発達の特性を理解し、支援計画・指導計画を作成する。
- ② 保護者や専門機関との連携を図る。
- ③ 様々な機会を通して、周りの幼児や保護者の理解を深めていく。

(5) 小学校や関連諸機関との連携を推進し、育ちの連続性を考える。

- ① 幼小連携を進め、幼児にとって小学校が身近な存在となり、興味をもてるような環境構成を考える。
- ② 3歳児健診で入園前の育ちや生活を知り、指導に活かす。

(6) 社会の変化に対応し、保護者や地域との関係を構築する力をつける。

- ① 教師の願いやねらいを伝える機会をもち、親子で成長できるよう努める。

②保護者の不安や悩みについて、いつでも相談できるよう啓発する。

③子どもの育ちや日常的なふれあいを通して、信頼関係を深める。

6 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を意識しながら保育し、幼小連携を通して滑らかな
接続を目指す。

(1) 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を意識できるように、毎日の保育記録の中で幼児の
姿を振り返り、考察（読み取り）をし、教師の援助や環境構成を考える。

(2) 接続期のカリキュラムを作成・見直しをし、就学に向けて滑らかに接続していけるように考
えていく。

(3) 小学校、幼稚園の教職員同士が連携し、研修や授業参観、保育参観を通して幼児への内面理
解に努める。